

伝える！ つなげる！ ゴースマイル！

宮小宮の丘

教育目標

学校 HP : <http://hachioji-school.ed.jp/komye/>

〇かしこい子 〇たくましい子 〇ゆたかな子 〇みんなと仲よく生きぬく子

令和7年度 学校だより
八王子市立小宮小学校
発行責任者
校長 山北 雅史
令和7年5月30日発行
第4号

夕暮れの斎場にて

校長 山北 雅史

そのメールは、立川の小学校でみなさんご存じの衝撃の事件があった日の翌朝に届きました。教え子からのメール。2年間にわたり闘病中だったお母様が60代半ばで、若くしてお亡くなりになったという知らせでした。今から20数年前の他市の小学校、まだ私が30代前半の若手教員だった頃、その方はたくさんの温かい言葉をくださり、担任そして学級を支えてくれました。学校全体のPTA活動にも進んで協力くださいました。私はその方の二人の男の子の兄弟を、高学年の時に続けて担任することとなり、いつも大きな安心と勇気をもたらしてきました。「先生、何かお手伝いできることあったら何でも言ってくださいね！」「この前の学級通信。とてもたのしかったです！」・・・自宅から遠く離れた他市へ転勤し、心細い思いであった私の気持ちをわかろうとして下さり、元気づけて励ますように、会うたびに笑顔で声かけてくれたのです。

その週末日曜日の夕方、家族葬としながらも他市の斎場はたくさんの人でいっぱいでした。多くのみなさんに慕われていた故人の温かいお人柄を感じました。立派に成長した二人の教え子は私を見て、故人からしたら孫にあたるかわいらしい子たちを抱っこしながら「ありがとうございます」とお辞儀を返してくれました。控室で開式を待ちながら目にしたのは、故人がこれまで歩んでこられた日々のスナップがたくさん貼られたボードとアルバムでした。幼いころから青春時代、そして結婚式、若いお母さんのころ、子どもたちとの家族写真、そしてお孫さんと一緒に最近の様子まで。お葬式の間では初めて見る光景でしたが、とても素晴らしいと思いました。たくさんの愛情を受けて人生を歩まれてきた方であることが一目でわかりました。だからこそ、周りのたくさんの方々に惜しみない愛情を与えてくれたのだと思います。病気になる前から、最後まで家族に対しても弱音一つ言わなかったと聞きました。まだまだ若い年齢ですが、とても充実された人生であったことと思います。心に響く大きな出来事が続いてあった週末でした。

人は誰しも、人と心をつなぎ合いながら人生を紡いでいきます。立川の事件ではありませんが、たとえ初めはすれ違っていたとしても、わかり合う努力をしなければ、あまりにももったいないです。相手をわかろうとするところから、すべてが始まるはずです。

